

Service Assembly Modeler (SAM) ユーザ ガイド

Service Assembly Modeler (SAM) は、SCA 複合サービス アセンブリ モデルを操作するためのツールを提供する Eclipse プラグインです。SAM は Oracle Enterprise Repository および Oracle Service Bus にバンドルされています。

以下の場合には SAM を使用します。

- 既存の Oracle Service Bus アプリケーションを SCA 対応にし、それらのアプリケーションに基づくサービス アセンブリ モデルを作成する場合。
- SCA コンポジットおよびその他のサービス アセンブリ モデルのアーティファクトを表示する場合。
- Oracle Enterprise Repository にモデルを送信する場合。

以下のトピックでは、SAM の概要を示します。

Service Assembly Modeler (SAM) の概要

SAM の概要を説明します。

Service Component Architecture (SCA) の概要

SAM の基礎である SCA の概要を説明します。

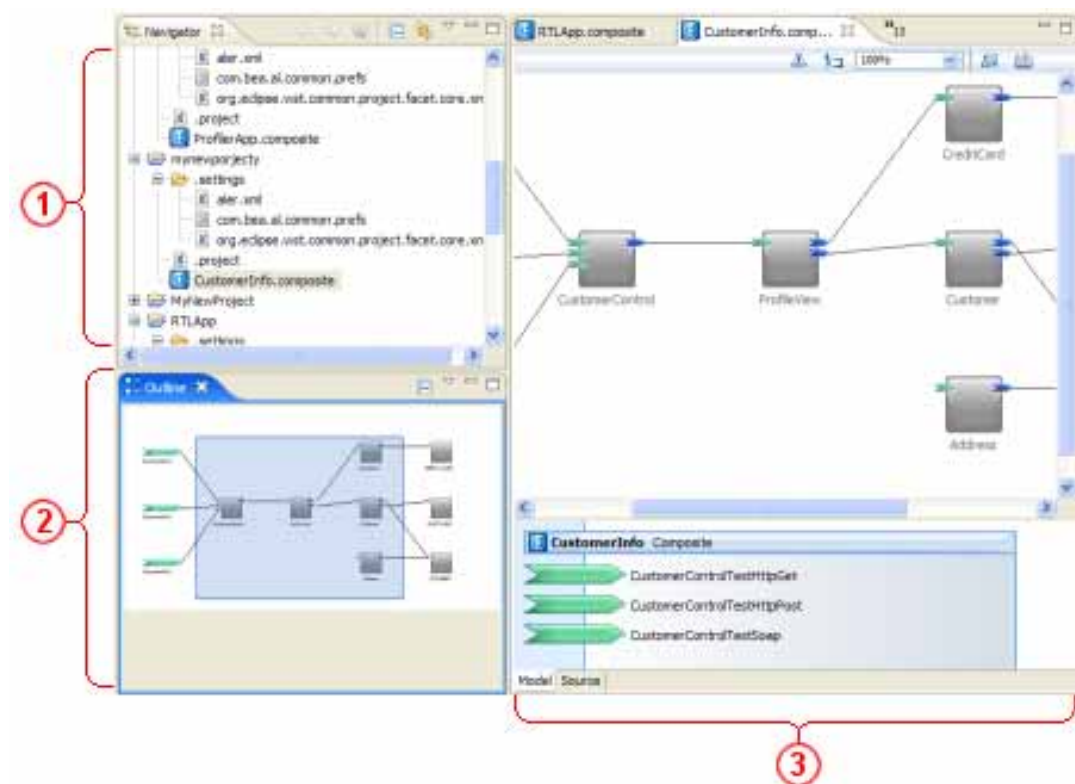
Service Assembly Modeler (SAM) の概要

Service Assembly Modeler (SAM) は、SCA 複合サービス アセンブリ モデルを操作するためのツールを提供する Eclipse プラグインです。SAM は Oracle Enterprise Repository および Oracle Service Bus にバンドルされています。

以下の場合には SAM を使用します。

- 既存のアプリケーションを SCA 対応にし、それらのアプリケーションに基づくサービス アセンブリ モデルを作成する場合。「SAM プロジェクトの作成」を参照してください。
- SCA コンポジットおよびその他のサービス アセンブリ モデルのアーティファクトを表示する場合。「SAM での SCA コンポジットの開始と表示」および「SAM でのサービス アセンブリ アセットの表示」を参照してください。
- Oracle Enterprise Repository にモデルを送信する場合。「[Submit Assets to Enterprise Repository] ウィザード」を参照してください。

次の図に示すように、SAM には 3 つのメイン ビューがあります (ビューの構成は、Eclipse IDE 上でのビューの配置方法によって異なる場合があります)。



主な項目：

1. Navigator ビュー

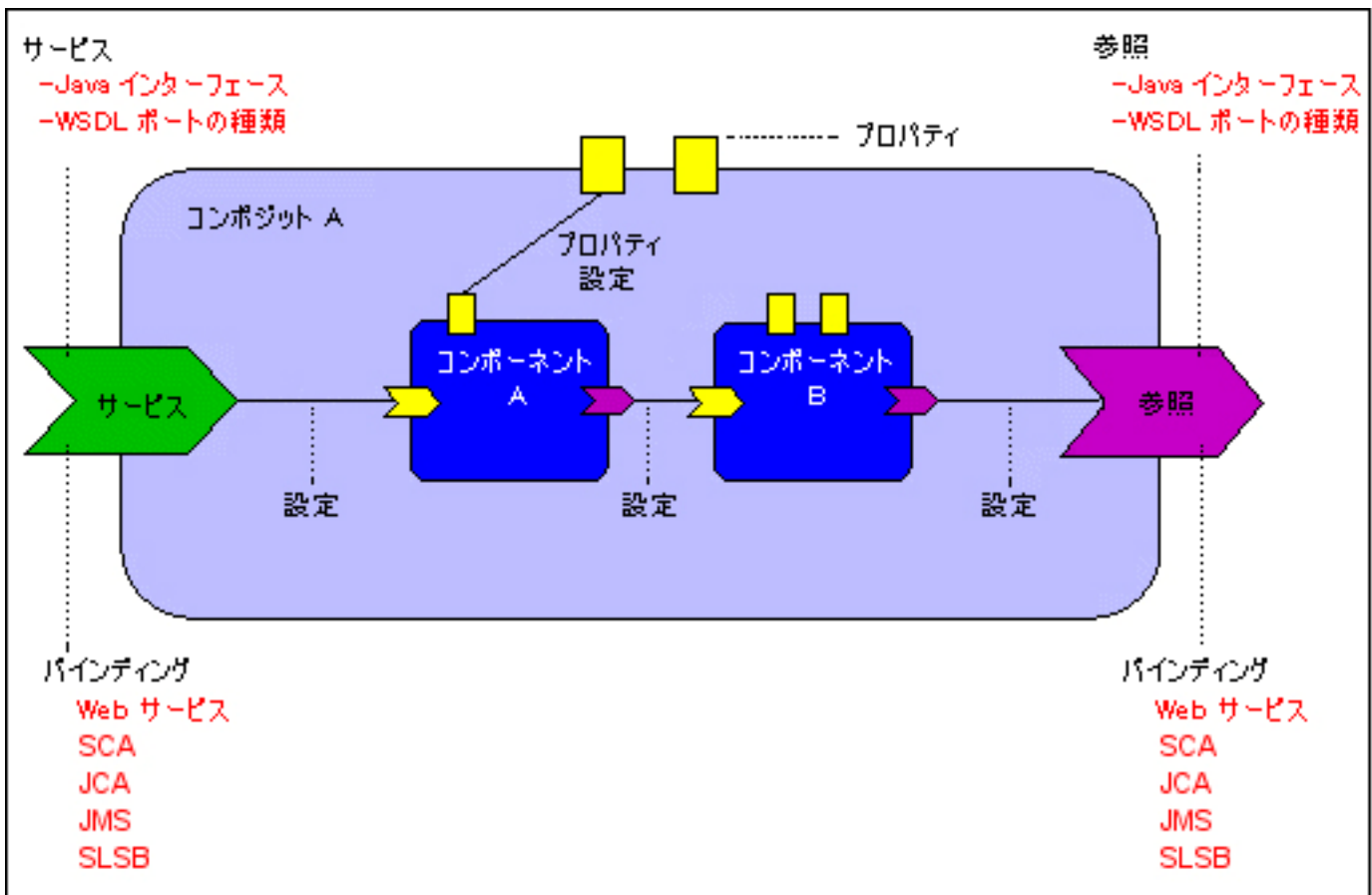
2. Outline ビュー

3. SAM コンポジット ビュー

各ビューの詳細については、上記のリンク先を参照してください。

Service Component Architecture (SCA) の概要

SAM は Service Component Architecture (SCA) を基礎にしています。SCA は、サービス指向アーキテクチャに基づいてアプリケーションおよびソリューションを構築するためのプログラミング モデルを提供します。SCA は、一連のサービスでビジネス機能を構成し、各サービスを相互に組み合わせて特定のビジネス ニーズに対応するソリューションを作成できるという概念に基づいています。これらのソリューションは複合アプリケーションと呼ばれ、アセンブリ モデルによって視覚的に示されます。複合アプリケーションには、アプリケーション用に特別に作成した新規サービスと、既存のシステム、アプリケーション、およびビジネス機能から構成の一部として再利用する既存サービスの両方を含めることができます。以下の図に、複合アプリケーションのアセンブリ モデルの例を示します。



SCA プログラミング モデルは、OMG による標準規格です。SCA は、異なるツール間でやり取りされる情報を標準化し、アプリケーションを構成するサービスおよびコンポーネントのモデル化、表現、および記述の一貫性を保証します。一貫性によって、異なるプログラム規範を使用して異なるツールで構築されたサービスの簡単な再利用や迅速なデプロイが可能になり、組織において期待される SOA の効率性の実現が促進されます。

Service Assembly Modeler (SAM) は複合アプリケーションの構成と視覚化をサポートします。構成は Eclipse ベースの開発環境内で行われます。この環境では、既存のサービスを再利用するか、または新規サービスを作成することにより、開発チームは迅速に複合アプリケーションをアセンブルできます。開発者は SAM を使用して、複合アプリケーションのアセンブリ モデルとコンポジットの XML 定義を表示できます。

Oracle Enterprise Repository を使用すると、組織で複合アプリケーションおよび再利用可能なサービスを管理できます。

開発チームは、SAM から直接 Oracle Enterprise Repository に複合アプリケーションを送信することができます。Oracle Enterprise Repository は既存のアプリケーションとサービスの表示機能、複合アプリケーションとその依存関係の追跡機能、および再利用と簡易化の影響分析値を計測する分析機能を提供します。

Service Assembly Modeler (SAM) タスク

以下のトピックでは、Service Assembly Modeler (SAM) のタスクの実行方法を説明します。

SAM の開始

Eclipse で SAM を開く方法を説明します。

SAM プロジェクトの作成

SAM プロジェクトの作成方法を説明します。

SAM でのサービス アセンブリ アセットの表示

コンフィグレーション ファイルおよびその他の SCA アセットの表示方法を説明します。

SAM での SCA コンポジットの開始と表示

SCA コンポジットを開き、SAM コンポジット ビューで表示する方法を説明します。

SAM コンポジット ビューでのグラフ トレーシングの使用

グラフ トレーシング機能を使用して SCA コンポジットの依存関係を強調表示する方法を説明します。

Oracle Enterprise Repository へのアセンブリ モデルの送信

Oracle Enterprise Repository にプロジェクトを送信する方法を説明します


SAM プロジェクトの作成

SAM プロジェクト ウィザードを使用して、新しい SAM プロジェクトを作成します。このトピックでは、SAM プロジェクト作成の最初の手順を説明します。

1. [File | New | Other...] を選択します。
2. [Select a Wizard] ダイアログから [SCA | Service Assembly Modeler Project] を選択して、SAM プロジェクト ウィザードを起動します。
3. ウィザードの指示に従ってプロジェクトを作成します。選択したオプションに基づいて、以下のように異なるページが表示されます。
 - SAM プロジェクト ウィザード - 新しい SAM プロジェクト - これは最初のページです。常にこのページから開始します。
 - SAM プロジェクト ウィザード - AquaLogic Service Bus 2.6 - AquaLogic Service Bus 2.6 に基づく SAM プロジェクトの作成用です。
 - SAM プロジェクト ウィザード - Enterprise Repository プロジェクトのプロパティ - モデルを送信できる Enterprise Repository への接続用です。

SAM での SCA コンポジットの開始と表示

方法 1

1. まだ開いていない場合は、[Window | Show View | Navigator] を選択して、[Navigator] ビューを開きます。
2. [Navigator] ビューでコンポジット ファイルを検索します。コンポジット ファイルは SCA のコンポジット アイコン  と .composite 拡張子で識別されます。
3. ファイル名をダブルクリックするか、またはファイルを右クリックして [Open] を選択し、SAM コンポジット ビューでコンポジットを開きます。「SAM コンポジット ビュー」を参照してください。

方法 2

1. まだ開いていない場合は、[Window | Show View | Navigator] を選択して、[Navigator] ビューを開きます。
2. プロジェクトが SCA 対応の場合は、[Navigator] ビューでプロジェクトを右クリックし、[Launch Service Assembly Model (SAM) editor] を選択します。Oracle Service Bus のプロジェクトはすべて SCA 対応です。

SAM の開始

以下のいずれかを実行します。

- 任意のワークスペースで Eclipse を開始して、SAM プロジェクトを作成します。「SAM プロジェクトの作成」を参照してください。
- Eclipse を開始し、[Workspace Launcher] ダイアログでワークスペースを選択するように求められたら、SAM プロジェクトを含むプロジェクトを選択します。


Oracle Enterprise Repository へのアセンブリ モデルの送信

SAM および Oracle Enterprise Repository のプロジェクトを Oracle Enterprise Repository に送信できます。

1. まだ開いていない場合は、[Window | Show View | Navigator] を選択して、[Navigator] ビューを開きます。
2. [Navigator] でプロジェクトを右クリックして、メニューから [Submit to Oracle Enterprise Repository] を選択します。「[Submit Assets to Enterprise Repository] ウィザード」を参照してください。

SAM コンポジット ビューでのグラフ トレーシングの使用

グラフ トレーシングは、SCA コンポジットの依存関係を簡単に確認できる SAM コンポジット ビューの機能です。

1. SAM でコンポジットを開きます。「SAM での SCA コンポジットの開始と表示」を参照してください。
2. [Model] ビューのタブにコンポジットが表示されていることを確認します。「SAM コンポジット ビュー」を参照してください。
3. グラフ トレーシングが現在オンになっていない場合は、ツールバーの  [Enable Graph Tracing] をクリックします。このボタンで、グラフ トレーシングのオンとオフを切り替えます。グラフ トレーシングがオンでも選択されている項目がない場合は、[Overview] ペインに表示されるすべての項目が淡色表示されます。
4. [Overview] ペインで、依存関係を確認するサービス、参照、またはコンポーネントをクリックします。複数の項目を選択するには、[Ctrl] を押しながらクリックします。

選択した項目に関連付けられたすべての項目が強調表示され、その他すべての項目が淡色表示されません (選択した項目が淡色表示の背景に対して通常どおりに表示された状態)。たとえば、コンポーネントを選択すると、そのコンポーネントおよび関連するすべてのサービスと参照が強調表示されます。サービスを選択すると、そのサービスおよび関連するすべてのコンポーネントが強調表示されます。

SAM でのサービス アセンブリ アセットの表示

1. まだ開いていない場合は、[Window | Show View | Navigator] を選択して、[Navigator] ビューを開きます。
2. [Navigator] ビューでファイルを検索します。
3. 以下のいずれかの方法を使用してファイルを開きます。
 - a. ファイル名をダブルクリックして、そのファイルの種類に応じたデフォルト エディタでファイルを開きます。
 - b. ファイル名を右クリックして [Open] を選択し、そのファイルの種類に応じたデフォルト エディタでファイルを開きます。
 - c. ファイル名を右クリックして、[Open With | (名前) Editor] (**名前**はエディタ名) を選択し、指定したエディタでファイルを開きます。テキストとして表示することも、構造を表示することもできるファイル (XML ファイルなど) を開く場合は、エディタの下部の [Design] および [Source] タブをクリックして、2 種類の表示を切り替えることができます。

Service Assembly Modeler (SAM) ユーザ インタフェース リファレンス

以下のトピックでは、ビュー、ダイアログ、エディタなどの Service Assembly Modeler (SAM) ユーザ インタフェース コンポーネントについて説明します。

Oracle Enterprise Repository の設定ダイアログ

Eclipse ワークスペースの Oracle Enterprise Repository 接続資格を手動設定する場合に使用するダイアログについて説明します。

[Build File Archive for Oracle Enterprise Repository Assets] ウィザード

従来の Oracle Enterprise Repository アセットを Oracle Enterprise Repository に送信する場合に使用するウィザードについて説明します。

[Download Artifacts] ウィザード

Eclipse プロジェクトにアセットのアーティファクト (ペイロード) をダウンロードする場合に使用するウィザードについて説明します。

[Enterprise Repository Access] ビュー

プロジェクトに関連付けられたアセットを表示してクエリを行う場合に使用するビューについて説明します。

[Enterprise Repository Asset Relationships] ビュー

選択したアセットの関係を確認する場合に使用するビューについて説明します。

Enterprise Repository の接続の確立ダイアログ

Enterprise Repository に接続する場合に使用するダイアログについて説明します。

SAM コンポジット ビュー

グラフおよびソースとして SAM コンポジットを表示する場合に使用するビューについて説明します。

SAM の [Navigator] ビュー

SAM プロジェクトとその内容の階層表示を提供するビューについて説明します。

SAM の [Outline] ビュー

SAM コンポジット ビューでコンポジットの全体図を表示したり、ソース表示で構造化ドキュメントの階層を表示したりできるビューについて説明します。

SAM プロジェクト ウィザード - 新しい SAM プロジェクト

SAM プロジェクトを作成する場合に使用するウィザードの最初のページについて説明します。

SAM プロジェクト ウィザード - Enterprise Repository プロジェクトのプロパティ

このプロジェクトの Enterprise Repository プロパティを設定する場合、およびリポジトリへの接続を確立する場合に使用する、SAM プロジェクト ウィザードのページについて説明します。

SAM プロジェクト ウィザード - AquaLogic Service Bus 2.6

AquaLogic Service Bus 2.6 リソースに基づいて SAM プロジェクトを作成する場合に使用する SAM プロジェクト ウィザードのページについて説明します。

[Submit Assembly Models to Enterprise Repository] ウィザード

Enterprise Repository にアセンブリ モデルを送信する場合に使用するウィザードについて説明します。

[Submit Project Files to Oracle Enterprise Repository] ウィザード

既存のアーカイブを選択し、Oracle Enterprise Repository にアセットを送信してアーカイブを更新する場合に使用するウィザードについて説明します。

ワークスペース使用状況の自動検出の設定ダイアログ

アセット使用状況の追跡設定を行う場合に使用するダイアログについて説明します。

[Service Consumption] ダイアログ

Oracle Enterprise Repository、UDDI レジストリ、URI、およびその他のリソース タイプのサービスを使用します。

Oracle Enterprise Repository の設定ダイアログ

[Connect to Enterprise Repository] ウィザード (リポジトリの接続が確立される前にアセットのクエリまたは送信を行うと、自動的に表示されます) で接続資格を入力していない場合は、Eclipse ワークスペース用の Oracle Enterprise Repository の接続資格を手動で設定できます。

1. [Credentials] 領域に、サーバの場所とログイン資格を入力します。
 - [Repository URL] - リポジトリ サーバの URL。
この URL には、ホスト、ポート、および Oracle Enterprise Repository サーバ名を含める必要があります。たとえば、「http://localhost:7001/aler30」のように入力します。
 - [User Name] - リポジトリにアクセスするために使用するユーザ名。
 - [Password] - リポジトリにアクセスするために使用するパスワード。
2. [Establish Connection] ボタンをクリックして、Enterprise Repository 接続を確認します。
接続を確立できない場合は、該当するエラー メッセージが表示されます。
3. 接続が確立されたら、ワークスペースの設定を以下のように指定できます。
 - すべてのプロジェクトのデフォルトとして使用する [Model Namespace] を入力します。ネームスペースは、モデルを構成する手段を提供し、リポジトリ内のモデルのすべてのアセットの名前にあらかじめ付加されます。ただし、ネームスペースはプロジェクトごとに変更できます (アセットの送信時など)。新しいネームスペースはそのプロジェクト用としてのみ保存されますが、ワークスペース名には影響しません。
 - 送信されるモデルが関連付けられる、Oracle Enterprise Repository の [Repository project] を選択します。アセットの使用はリポジトリで追跡され、通常はソフトウェア開発プログラムやビジネス イニシアティブなどを表すリポジトリ プロジェクトで発生します。
4. [Artifact Store] 領域には、送信されるアセットが関連付けられるコンフィグレーション済みのアーティファクト ストアの名前が表示されます。アーティファクト ストアには、Oracle Enterprise Repository のアセットに関連するファイルが格納されます。アーティファクト ストアは、Oracle Enterprise Repository コンソールで管理者によってコンフィグレーションされます。また、アーティファクト ストアに関する追加の情報が [Details] ボックスに表示される場合もあります。
5. 完了したら、[OK] をクリックします。

Oracle Enterprise Repository ワークスペース設定の詳細な手順については、Oracle Enterprise Repository の Oracle Workshop for WebLogic を使用した Eclipse との統合に関するドキュメントを参照してください。

[Submit Assets to Enterprise Repository] ウィザード

Eclipse プロジェクトを右クリックして、メニューから [Submit to Oracle Enterprise Repository] を選択すると、リポジトリ アクセスのプラグインによってプロジェクトをアセンブリ モデルに変換できるかどうか判断されます。プロジェクトをアセンブリ モデルに変換できる場合は、[Submit Assets to Enterprise Repository] ウィザードを使用して関連するアセットを送信できます。最初のダイアログ ボックスには、モデルやアーティファクト ストアの情報など、送信されるアセットに関連付けられたメタデータが表示されます。必要に応じて 2 番目のダイアログ ボックスでは、アセットを送信する前に、アセンブリ モデルに対して存在する可能性がある外部サービス参照を解決できます。

アセンブリ モデルをリポジトリに送信するには、ユーザが高度なサブミッター ロールに割り当てられている必要があります。ロールの状態がわからない場合は、Oracle Enterprise Repository のシステム管理者に確認してください。

Enterprise Repository にアセットを送信する詳細な手順については、Oracle Enterprise Repository の Oracle Workshop for WebLogic を使用した Eclipse との統合に関するドキュメントを参照してください。

送信情報の指定

1. Eclipse プロジェクトを右クリックして、メニューから [Submit to Oracle Enterprise Repository] を選択します。
2. 必要に応じて、[Submission Information] ボックスのフィールドに入力します。送信後、入力した以下の情報がアセット クエリの [Results] ペインに表示されます。
 - [Model Name] - Oracle Enterprise Repository でプロジェクトの参照に利用されるモデル名。モデルに属するすべてのアセットに、このモデル名が付けられます。デフォルト名は現在の Eclipse プロジェクトの名前ですが、最初の送信の際この名前を変更することができます。
 - [Model Version] - モデル内のすべてのアセットに共通のラベル。最初の送信時および後続の再送信時には、このフィールドに表示される文字は編集できません。フィールドは、一定の条件が満たされた場合にのみ編集できます。
 - [Model Namespace] - アセンブリ モデルのグループ化のメカニズム。ネームスペースは、リポジトリ内のモデルのすべてのアセットの名前にあらかじめ付加されます。送信するプロジェクトにネームスペースが関連付けられている場合は、このネームスペースがデフォルトで表示されます。それ以外の場合は、ワークスペースの設定のデフォルト (存在する場合) が表示されます。デフォルトのネームスペース名は最初の送信の際に変更することができます。新しいネームスペースは現在のプロジェクト用としてのみ保存され、ワークスペース名には影響しません。
 - [Repository Project] - 現在の Eclipse プロジェクトに関連付けられた Oracle Enterprise Repository プロジェクト。アセットの使用はリポジトリで追跡され、通常はソフトウェア開発プログラムやビジネス イニシアティブなどを表すリポジトリ プロジェクトで発生します。送信するプロジェクトにリポジトリ プロジェクトが関連付けられている場合は、このリポジトリ プロジェクトがデフォルトで表示されます。それ以外の場合は、ワークスペースのデフォルト (存在する場合) が表示されます。デフォルトのリポジトリ プロジェクト名は最初の送信の際に変更することができます。新しい名前は現在のプロジェクト用としてのみ保存され、ワークスペース名には影響しません。
 - [Comments for Registrar] - 必要に応じて、現在のプロジェクトに関する情報を Oracle Enterprise Repository レジストラに提供します。

これらのコメントは、Asset Editor の [Administration] タブの [Audit Log] 要素を使用してレジストラで確認できます。ログ エントリの名前は Submission Comment Added になります。

注意 : [Model Name]、[Namespace]、および [Version] フィールドには最初の送信時に使用された値が設定され、モデル ロックまたは名前の衝突が発生しない限り、プロジェクトの再送信時に編集することはできません。Oracle Enterprise Repository の Oracle Workshop for WebLogic を使用した Eclipse との統合に関するドキュメントの「Oracle Enterprise Repository へのモデルの送信のガイドライン」を参照してください。

3. [Artifact Store] 領域のフィールドを確認して入力します。

- [Artifact Store] 領域には、送信されるアセットが関連付けられるコンフィグレーション済みのアーティファクト ストアの名前が表示されます。アーティファクト ストアには、Oracle Enterprise Repository のアセットに関連するファイルが格納されます。アーティファクト ストアは、Oracle Enterprise Repository コンソールで管理者によってコンフィグレーションされます。また、アーティファクト ストアに関する追加の情報が [Details] ボックスに表示される場合もあります。
- [Project Path] ボックスに、送信されるアセットが関連付けられるプロジェクト パスの名前を入力します。[Project Path] は、Eclipse プロジェクト レベルで定義され、アーティファクト ストアの [Path] 属性に関連します。

4. [Finish] をクリックします。

外部サービス参照の解決

未解決の外部サービス参照がプロジェクトに含まれている場合は、プロジェクトを Oracle Enterprise Repository に送信する前に、それらを解決することができます。ただし、これは必須ではありません。

1. 未解決の外部サービス参照を含むプロジェクトを送信すると、[Resolving External Service References] ダイアログ ボックスが自動的に表示されます。このダイアログ ボックスには、未解決の参照の一致候補が表示されます。
2. 未解決の外部参照を、ダイアログ ボックスに表示されている一致候補のサービスに対応付けます。
 - [External Service References] - Oracle Enterprise Repository に送信されるプロジェクトに関連付けられている未解決の外部サービス参照のリストが表示されます。サービスが選択されると、[Potential Service Matches] のリストが更新されます。また、このボックスには、現在解決済みの一致項目 (存在する場合) の名前も中括弧 ({}) に囲まれて表示されます。
 - [Potential Service Matches] - 選択された外部サービス参照の一致候補のすべてのサービスが表示されます。また、各項目の上にポインタを置くと、一致の割合の値が表示されます。この割合が高いほど、一致する可能性が高くなります。一致候補を選択すると、そのサービスの詳細が [Details] セクションに表示されます。
 - [Match] - [Match] ボタンを選択すると、選択した一致候補が選択した外部サービス参照に関連付けられます。また、選択した外部サービス参照のラベルも更新され、名前が中括弧 ({}) に囲まれて表示されます。
3. [Finish] をクリックして、サービス参照を解決します。

ワークスペース使用状況の自動検出の設定ダイアログ

Oracle Enterprise Repository では、開発環境内のアセットの再利用を自動的に検出できます。これにより、アセットが Oracle Enterprise Repository を使用してダウンロードされているかどうかに関係なく、開発チームはアセット再利用の信頼性を取得できます。使用状況の自動検出は、「ソフトウェア ファイル ID (SFID)」というフィンガープリント プロセスに依存します。SFID では、アセット内の選択されたファイルにユニークな ID がタグ付けされます。この SFID は、Oracle Enterprise Repository の [Use - Download] プロセス以外の手段でアセットが取得された場合でも、アセットが使用される時間と場所の検出に使用されます。使用状況のインスタンスは、アセット内のタグ付けされたファイルが開発者の IDE に送られるときに Oracle Enterprise Repository によって記録され、新しいビルドまたはビルドのクリーンが行われます。

1. [Detect usage in workspace projects] チェック ボックスをクリックし、以下に示す使用状況の検出機能のうち、必要なものを選択します。
 - [Enable usage detection in new workspace projects by default] - 新しいプロジェクトをモニタします。
 - [Detect usage of files on classpath] - クラスパス上のファイルをモニタします。
 - [Detect usage of Java Runtime JARs] - Java ランタイム JAR をモニタします。
 - [Cache calculated SFIDs (recommended)] - 計算された SFID をキャッシュします (パフォーマンスの向上)。
 - [Detect usage of files matching pattern] - 指定したパターンに一致するファイルをモニタします。
2. [File Pattern] テキスト ボックスに適切な情報を入力します。
 - [Include File Pattern] - 指定されたファイル パターンを含めます。
 - [Exclude File Pattern] - 指定されたファイル パターンを除外します。
3. 個々のチェック ボックスまたは [Select All] ボタンと [Unselect All] ボタンを使用して、使用状況の自動検出の対象とするプロジェクトのディレクトリを指定します。
4. 完了したら、[OK] をクリックします。

Oracle Enterprise Repository ワークスペースの設定の詳細については、Oracle Enterprise Repository の Oracle Workshop for WebLogic を使用した Eclipse との統合に関するドキュメントを参照してください。

[Build File Archive for Oracle Enterprise Repository Assets] ウィザード

[Archive Submission] ウィザードを使用すると、アセットのアーカイブ ZIP ファイルを作成することにより、単一ペイロードまたは複合ペイロードのアセットを Oracle Enterprise Repository に送信できます。

アセットのアーカイブ ファイルの作成の詳細については、Oracle Enterprise Repository の Oracle Workshop for WebLogic を使用した Eclipse との統合に関するドキュメントを参照してください。

1. アーカイブの作成対象のアセットを含むプロジェクトを選択します。
2. 以下のいずれかの方法で [Export] ダイアログ ボックスを開きます。
 - 目的のプロジェクトを右クリックし、コンテキスト メニューの [Export] を選択します。
 - メインの [File] メニューから [Export] を選択します。
3. [Export] ダイアログ ボックスで、[Oracle Enterprise Repository] フォルダを開き、[Build Archive Submission] オプションを選択します。
4. [Build File Archive - File Selection] ダイアログ ボックスで、以下の操作を行います。
 - a. アーカイブ名を入力します。この場合、ローカル ファイル ストアの既存のアーカイブを選択するか、または新しいアーカイブを作成します。どちらの場合でも、アーカイブの拡張子は .zip である必要があります。
 - b. ファイル カテゴリ ボタンを使用してファイルを選択し、アーカイブ ファイルに割り当てます。
 - c. [Next] をクリックします。
5. [Enter Submit Data] ダイアログ ボックスに、アセットに関する適切な情報を入力します。
6. [Finish] をクリックします。
7. [OK] をクリックして Oracle Enterprise Repository への送信を確定します。

アセットは、インストール済みのレジストリにアップロードされ、Oracle Enterprise Repository の Asset Editor のファイル ツリーにある [Submitted - Pending Review] フォルダに表示されます。Oracle Enterprise Repository ビューの [Results] ペインのデータを更新して、状態が [Pending Review] のアセットを表示することもできます。また、アセットをクリックして詳細を表示することもできます。詳細については、[Results] ペインを参照してください。

[Download Artifacts] ウィザード

アセットのアーティファクト (ペイロード) を Eclipse プロジェクトにダウンロードできます。一般に、アセットのペイロードとは、開発者がサービス (WSDL ファイルなど) を使用するか、コード ベース (通常はバイナリ) に組み込む必要のある機能です。アセット メタデータ内では、サポートするドキュメント、ユーザーズガイド、テスト ケースなどへのリンクが提供され、開発者は既存の機能を再利用しやすくなります。

1. 「アセットの検索」の説明に従って、リポジトリに対して目的のアセットのクエリを実行します。
2. [Results] ペインで適切なアセットを右クリックし、使用可能なアーティファクトがある場合は、ショートカット メニューの [Download Artifacts] を選択して [Download Artifacts] ウィンドウを開きます。
3. [Download Location] セクションで、以下の操作を行います。
 - [Download Folder] フィールドを使用して Eclipse プロジェクトに移動し、ダウンロード先のフォルダを選択します。
 - [Overwrite existing files] チェック ボックスを選択して、選択したプロジェクト フォルダにある既存のバージョンのアーティファクトを上書きします。
4. [Repository Governance] セクションで、以下の操作を行います。
 - [Repository Project] リストで、有効なプロジェクトを選択します。
 - [Subscribe to associated assets] チェック ボックスを選択して、選択されたすべてのアセット (ファイルが関連付けられているアセット) および Service Assembly Model 用の関連するアーティファクト アセットと依存関係をサブスクライブします。
5. ダウンロードするアーティファクトのリストで選択内容を確認し、[OK] をクリックします。選択されたアセットに関連付けられたアーティファクトが、指定の場所にダウンロードされます。
6. 状態の確認ウィンドウで、もう一度 [OK] をクリックします。
7. ダウンロード先として選択したフォルダを開き、選択したアーティファクト ファイルがダウンロードされていることを確認します。

アセット アーティファクトをダウンロードするための詳細な手順については、Oracle Enterprise Repository の Oracle Workshop for WebLogic を使用した Eclipse との統合に関するドキュメントを参照してください。

[Enterprise Repository Access] ビュー

[Enterprise Repository Access] ビューでは、Oracle Enterprise Repository のアセットやアーティファクトにアクセスできます。このビューでは、Oracle Enterprise Repository インスタンスの既存のアセットだけでなく、SCA 標準に準拠しているアセットをサポートします。また、さまざまな条件に一致するアセットを検索したり、プロジェクトに関係するアセットを表示したりできます。選択されたアセットについて、詳細や関係を表示したり、関連付けられたアーティファクトをワークスペースにダウンロードしたりすることもできます。

[Enterprise Repository Access] ビューには、2 つのタブがあるペインが表示されます。[Search] タブでは、アセットのクエリを実行できます。クエリの結果は指定した条件に基づいて表示されます。[Project Team Assets] タブでは、指定した Oracle Enterprise Repository プロジェクトに関連付けられたすべてのアセットを表示できます。

[Enterprise Repository Access] ビューを使用するための詳細な手順については、Oracle Enterprise Repository の Oracle Workshop for WebLogic を使用した Eclipse との統合に関するドキュメントを参照してください。

[Search] タブ

[Search] タブの一番上には、アクティブなビューが [Query] ペインか [Results] ペインかを示すツールバーが表示されます。その時点でアクティブなペインに応じて [Query] リンクまたは [Results] リンクをクリックすることで、この 2 つの表示を切り替えることができます。

[Query] ペイン

[Query] ペインを使用すると、AquaLogic Service Bus 2.6 または AquaLogic DSP 2.5 プロジェクトなどの統合された外部エンドポイントからインポートしたアセンブリ モデル アセットを含む、ユーザのプロジェクトに関連する可能性があるアセット、および Oracle Enterprise Repository インスタンスに定義済みの共通の Oracle Enterprise Repository アセットを表示するように、アセット クエリのフィルタ処理を簡単に構成できます。

- クエリはキーワード、アセットの種類、登録状態、またはこれらのフィルタ条件を組み合わせ、フィルタ処理できます。重要な 3 つのアセットの種類を以下に示します。
 - Assembly Model Assets** – AquaLogic DSP バージョン 2.5 および AquaLogic Service Bus バージョン 2.6 など、統合された外部エンドポイントから送信されるアセットです。
 - Common Assets** – 既存の Oracle Enterprise Repository プロジェクトからのアセットです。
 - Consumable Assets**
- アセットの [Categorizations] チェックボックスを使用して、クエリをフィルタ処理することもできます。条件に複数のカテゴリーの種類が使用される場合、選択した種類は AND で結合されます。OR のオプションはありません。
- [Additional Criteria] テーブルには、クエリに適用される追加のフィルタのセットが表示されます。これらの条件は結合され、クエリ制約を作成します。
- クエリの結果は、[Refresh enterprise repository information] ツールバー ボタンを使用して更新できます。Enterprise Repository に対してメタデータのクエリが行われ、そのクエリの結果に基づいて適切なフィールドが更新されます。

[Results] ペイン

[Results] ペインには、[Query] ペインで設定した検索条件を満たすすべてのアセットが表示されます。すべてのクエリ結果について、以下の情報が表示されます。

- [Asset] – アセットの単純名。
- [Model] – Oracle Enterprise Repository にインポートされるアセンブリ モデル アセットの名前。
- [Model Namespace] – ネームスペースはモデルが属するグループです。ネームスペースは、リポジトリ内のアセンブリ モデルのすべてのアセットの名前にあらかじめ付加されます。
- [Version] – アセットのバージョン番号。
- [Type] – アセットの種類。
- [Reg Status] – アセットの登録状態。
- [Product] – アセットの作成元の製品。
- [# of Artifacts] – アセットに関連付けられたアーティファクトの数。1 以上の場合は、[Download artifacts] オプションが有効になります。

結果の行を選択すると、アセットのプロパティ、詳細、関係がそれぞれ [Properties] ビュー、[Asset Details] ビュー、[Enterprise Repository Asset Relationships] ビューに表示されます (適切なビューが表示可能な場合)。

アセット ビューは、以下のツールバー ボタンでも切り替えることができます。

- [Toggle the display of the asset detail view] – アセットが選択されている場合に、その詳細を Web ブラウザに表示するか、Web ベースの表示を行わないかを指定します。
- [Display the asset properties and relationships view] – 選択されたアセットの詳細を [Results] ペインに表示します。

詳細については、「[Enterprise Repository Asset Relationships] ビュー」を参照してください。

アセットを右クリックして、メニューから以下のオプションにアクセスすることもできます。

- [Download artifacts] - [# of Artifacts] カラムの値が 1 以上の場合は、アセットのアーティファクトとその依存関係を Eclipse プロジェクトにダウンロードできます (アセンブリ モデルの送信時に SCM 情報が適切に設定されていた場合)。詳細については、Oracle Enterprise Repository の Oracle Workshop for WebLogic を使用した Eclipse との統合に関するドキュメントを参照してください。
- [Subscribe/Unsubscribe] - 選択されたアセットが現在アンサブスクライブされている場合はサブスクライブします。逆に、サブスクライブされている場合はアンサブスクライブします。
- [Show in asset details view] - [Asset Details] ビューを開きます。

[Project Team Assets] タブ

[Project Team Assets] ビューでは、プロジェクトに割り当てられたすべての準拠テンプレートに格納されたアセットのリストを表示することができます。このビューアでは、ユーザまたは他のプロジェクトメンバーが使用したアセットを示します。また、プロジェクトですでに使用されているその他のアセットが表示されます。

[Project Team Assets] ビューは、ワークスペース Oracle Enterprise Repository プロジェクトとは切り離されています。そのため、ワークスペースのデフォルトを設定または変更せずに Oracle Enterprise Repository プロジェクト用のアセットを表示できます。また、外部 Web ブラウザを起動せずにアセットの詳細を表示するための補助的なビューもあります。

[Enterprise Repository Asset Relationships] ビュー

[Enterprise Repository Asset Relationships] ビューには、選択されたアセットに対する関係がグラフィカルに表示されます。

[Asset Relationship] タブの内容は、[Results] ペインで選択されたアセットに基づきます。このビューでは、選択されたアセットがグラフの中央にスタンドアロン ノードとして表示されます。また、そのアセットが関わるすべての関係（双方向、一方向など）が表示されます。

注意： アセンブリ モデルのみに存在する特有のシステム関係があります。

選択されたアセットとの関係のソースであるアセットは、選択されたアセットの上に表示されます。また、選択されたアセットへのリンクが示されます。選択されたアセットとの関係の対象であるアセットは、選択されたアセットの下に表示されます。また、選択されたアセットからのリンクが示されます。

[Enterprise Repository Asset Relationships] ビューを使用するための詳細な手順については、Oracle Enterprise Repository の Oracle Workshop for WebLogic を使用した Eclipse との統合に関するドキュメントを参照してください。

Enterprise Repository の接続の確立ダイアログ

リポジトリの接続が確立される前に、Enterprise Repository に対するアクション (クエリの実行やアセットの送信など) を呼び出すと、[Connect to Enterprise Repository] ウィザードが自動的に表示されるか (リポジトリに対するクエリを実行する場合)、またはアセットの詳細表示などの明示的な操作によってウィザードが起動されます。

1. [Credentials] 領域に、サーバの場所とログイン資格を入力します。
 - [Repository URL] - リポジトリ サーバの URL。
この URL には、ホスト、ポート、および Oracle Enterprise Repository サーバ名を含める必要があります。たとえば、「http://localhost:7001/aler30」のように入力します。
 - [User Name] - リポジトリにアクセスするために使用するユーザ名。
 - [Password] - リポジトリにアクセスするために使用するパスワード。
2. [Establish Connection] ボタンをクリックして、Oracle Enterprise Repository の接続を確立します。接続を確立できない場合は、該当するエラー メッセージが表示されます。
3. 接続が確立されたら、以下のいずれかの操作を行うことができます。
 - [Next] をクリックして、ワークスペースの設定を選択します (手順 4 に進みます)。
 - [Finish] をクリックして終了します。
4. 以下の操作を実行して、ワークスペースの設定を指定します。
 - すべてのプロジェクトのデフォルトとして使用する [Model Namespace] を入力します。ネームスペースは、モデルを構成する手段を提供し、リポジトリ内のモデルのすべてのアセットの名前にあらかじめ付加されます。ただし、ネームスペースはプロジェクトごとに変更することができます (アセットの送信時など)。新しいネームスペースはそのプロジェクト用としてのみ保存され、ワークスペースの設定名には影響しません。
 - 送信されるモデルが関連付けられる、Oracle Enterprise Repository の [Repository project] を選択します。アセットの使用はリポジトリで追跡され、通常はソフトウェア開発プログラムやビジネス イニシアティブなどを表すリポジトリ プロジェクトで発生します。
 - [Artifact Store] 領域には、送信されるアセットが関連付けられるコンフィグレーション済みのアーティファクト ストアの名前が表示されます。アーティファクト ストアには、Oracle Enterprise Repository のアセットに関連するファイルが格納されます。アーティファクト ストアは、Oracle Enterprise Repository コンソールで管理者によってコンフィグレーションされます。また、アーティファクト ストアに関する追加の情報が [Details] ボックスに表示される場合もあります。
5. [Finish] をクリックして終了します。

Oracle Enterprise Repository 接続を確立するための詳細な手順については、Oracle Enterprise Repository の Oracle Workshop for WebLogic を使用した Eclipse との統合に関するドキュメントを参照してください。

SAM プロジェクト ウィザード - 新しい SAM プロジェクト

SAM プロジェクト ウィザードには、SAM プロジェクトを作成するためのオプションが一連のページに表示されます。ウィザードの最初のページは [New SAM Project] ページです。このページに次のように入力します。

1. [Project Name] フィールドに、プロジェクトの名前を入力します。
2. 以下のいずれかの方法を使用して、[Project Contents] に、コンフィグレーション ファイル、コンポジット ファイルなどのプロジェクト項目を格納する場所を設定します。
 - [Use Defaults] を選択して、現在の Eclipse ワークスペースのデフォルト フォルダを使用します。
 - [Use Defaults] を選択解除して場所を入力するか、または [Browse] をクリックして場所を検索します。
3. 既存のアプリケーションに基づく SAM プロジェクトを作成するには、以下の手順を実行します。
 - a. [Project Source] のドロップダウン リストから、SAM プロジェクトの作成元である製品の種類を選択します。このリストには、SAM の現在のバージョンによってサポートされる製品の種類が表示されます。SAM の今後のリリースでは、さらに種類が追加される予定です。
 - b. [Next] をクリックします。ウィザードの次のページが表示されます。以降の手順は、以下のリンク先を参照してください。
 - SAM プロジェクト ウィザード - AquaLogic Service Bus 2.6

SAM プロジェクト ウィザード - Enterprise Repository プロジェクトのプロパティ

SAM プロジェクト ウィザードのこのページを使用して、このプロジェクトの Enterprise Repository プロパティの設定やリポジトリへの接続の確立を行います。リポジトリへの接続を試行する前にページ下部の [Finish] をクリックすると、この手順を省略できます。

1. Enterprise Repository との接続をまだ確立していない場合は、[Connect to Repository] をクリックして、接続を確立します。接続を確立する場合、有効な資格が入力されると、このボタンが有効になります。一度接続が確立されると、次に資格が変更されるまでボタンは無効になります。[Enterprise Repository Property Settings] では、次のように、デフォルトのリポジトリ プロジェクト設定をそのまま使用するか、または設定を上書きします。
 - [Use workspace defaults] を選択して、モデル ネームスペースとリポジトリ プロジェクトのデフォルトをそのまま使用します。
 - [Use workspace defaults] を選択解除してデフォルトを上書きします。次に、以下の操作を実行します。
 - 定義済みのネームスペースがない場合は、[Model Namespace] フィールドにモデルのネームスペースとして使用する名前を入力します。
 - [Repository project] リストから、送信するモデルの Oracle Enterprise Repository プロジェクトを選択します。アセットの使用はリポジトリで追跡され、リポジトリ プロジェクトで発生します。通常、リポジトリ プロジェクトは、ソフトウェア開発プログラム、ビジネス イニシアチブなどを表します。
2. 接続が確立されると、[Enterprise Repository Connection] ダイアログが表示されます。資格を入力し、[Next] をクリックします。
3. [Artifact Store] で、以下の操作を実行します。
 - [Name] - 送信されるアセットが関連付けられるコンフィグレーション済みのアーティファクト ストアの名前を選択します。これが、Oracle Enterprise Repository のアセットに関連するファイルが格納される場所になります。
 - [Details] - 必要に応じて、アーティファクト ストアに関する追加情報を提示します。
 - [Project Path] - 送信されるアセットが関連付けられるプロジェクトのパスを入力します。
4. [Finish] をクリックします。新しいプロジェクトが [Navigator] ビューに表示されます。

SAM プロジェクト ウィザード - AquaLogic Service Bus

AquaLogic Service Bus アプリケーションを選択して SCA 対応にするには、SAM プロジェクト ウィザードの [AquaLogic Service Bus] ページを使用します。このページは、SAM プロジェクト ウィザードの [New SAM Project] ページにある [Project Source] で、[AquaLogic Service Bus 2.6] を選択した場合に表示されます。

1. [Server Host] フィールドに、example.host.com など、アプリケーションをホストするサーバのアドレスを入力します。
2. [Server Port] フィールドに、ホストに使用するポートを入力します。
3. [Server User] フィールドに、有効なユーザ ID を入力します。
4. [Server Password] フィールドに、ユーザのパスワードを入力します。
5. [Get Application Composite] ボタンをクリックして、指定の場所で使用できる AquaLogic Service Bus アプリケーションを取得します。
6. [Select the application composite to SCA-enable] で、有効にするアプリケーションを選択します。
7. 以下のいずれかの操作を実行します。
 - a. [Next] をクリックして、Enterprise Repository プロジェクト プロパティの設定およびリポジトリへの接続の確立を行います。「SAM プロジェクト ウィザード - Enterprise Repository プロジェクトのプロパティ」を参照してください。
 - b. [Finish] をクリックして、リポジトリ プロジェクトのプロパティを設定せずにプロジェクトを作成します。新しいプロジェクトが [Navigator] ビューに表示されます。

[Patch Profile] ダイアログ

このダイアログは、ユーザが SAM または Oracle Enterprise Repository プラグインを開き、新しいパッチ プロファイルが検出されたときに表示されます。リストから適切なプロファイルを選択して、[OK] をクリックします。プロファイルが、対応するクラスパスにあらかじめ付与されます。

[Submit Project Files to Enterprise Repository] ウィザード

Oracle Service Bus プロジェクトを右クリックし、メニューから [Submit to Oracle Enterprise Repository] を選択すると、接続が確立されている場合には、Workshop for WebLogic の Oracle Enterprise Repository プラグインによって、プロジェクトがアセンブリ モデルであるか既存の Oracle Enterprise Repository API プロジェクトであるかが判断されます。Oracle Enterprise Repository プロジェクトの場合は、[Submit Project Files] ウィザードを使用すると、既存のアーカイブを選択し、Oracle Enterprise Repository に送信するアセットで更新できます。

Oracle Enterprise Repository プロジェクト ファイルの送信の詳細については、Oracle Enterprise Repository の Oracle Workshop for WebLogic を使用した Eclipse との統合に関するドキュメントを参照してください。

1. [Archive Name] フィールドで、既存のプロジェクト アーカイブ フィールドへのパスを入力するか、[Ellipses] ボタンを使用してアーカイブを参照します。新しいアーカイブ ファイルを作成することもできます。既存のファイルが選択されると、その完全修飾パスが [Archive Name] テキスト フィールドに挿入されます。有効なプロジェクト アーカイブはファイル拡張子が .zip である必要があります。
2. 既存のアーカイブを選択する場合は、[OK] をクリックして、選択されたプロジェクト アーカイブの上書きを許可します。
3. 作成されたプロジェクト フォルダ構造を使用して、Oracle Enterprise Repository に送信するファイルを少なくとも 1 つプロジェクトから選択します。
4. 必要に応じて、[Select Types] ボタンをクリックし、アーカイブに含める特定のファイル タイプを選択するダイアログ ボックスを開くことができます。
5. アーカイブに含めるファイルを選択したら、[Next] をクリックします。プロジェクトから選択されたすべてのアーティファクトがアーカイブ ファイルに格納されます。
6. アーカイブ ファイルとそのコンテンツが指定されたら、アセット送信データ (バージョン番号、送信されるアセットの種類、説明、関連コメントなど) を入力できます。
7. [Finish] をクリックします。
8. 確認ウィンドウの [OK] をクリックして送信プロセスを完了します。

プロジェクトは、Oracle Enterprise Repository Asset Editor のファイル ツリーにある [Submitted - Pending Review] フォルダにアセットとして表示されます。Oracle Enterprise Repository ビューの [Results] ペインのデータを更新して、状態が [Pending Review] のアセットを表示することもできます。また、アセットをクリックして詳細を表示することもできます。詳細については、[Results] ペインを参照してください。

SAM の [Navigator] ビュー

[Navigator] ビューでは、現在のワークスペースのサービス アセンブリ モデルの階層ビューが表示されます。モデルは、SCA コンポジットを含む SAM プロジェクトおよびモデルをコンフィグレーションするその他のアセットとして Eclipse に表示されます。

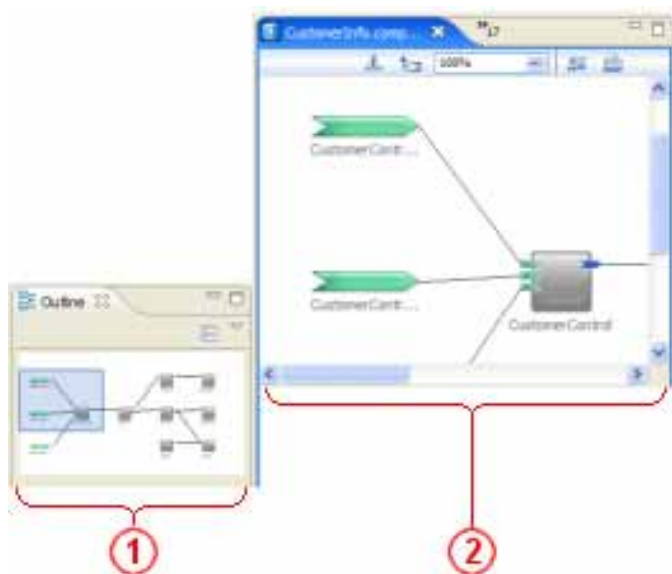
デフォルトのビューまたはエディタでファイルを開くには、ファイル名をダブルクリックするか、右クリックしてメニューから [Open] を選択します。別のビューまたはエディタで開くには、右クリックしてメニューから [Open With] を選択します。次に、使用するビューまたはエディタを選択します。

Oracle Enterprise Repository にアセンブリ モデルを送信するには、SAM プロジェクトの名前を右クリックして、[Submit to Oracle Enterprise Repository] を選択します。「[Submit Assets to Enterprise Repository] ウィザード」を参照してください。

SAM の [Outline] ビュー

SAM コンポジット ビューの [Model] ビューのタブに SCA コンポジットが開いている場合は、[Outline] ビューにコンポジットの全体図が表示されます。コンポジットが大きすぎて SAM コンポジット ビューに収まらない場合、[Outline] ビューでは、表示可能な部分に重ねて影付きボックスが表示されます。[Outline] ビューのこのボックスをドラッグすると、コンポジットの表示されていない部分がコンポジット ビューに表示されます。

たとえば、以下の図では、[Outline] ビュー (1) の青いボックスが、SAM コンポジット ビュー (2) で表示可能な SCA コンポジットの部分を示しています。左の青いボックスをドラッグすると、右に表示されるコンポジットの部分が切り替わります。



主な項目 :

1. [Outline] ビュー
2. SAM コンポジット ビュー、[Model] ビュー タブ

SAM コンポジット ビュー

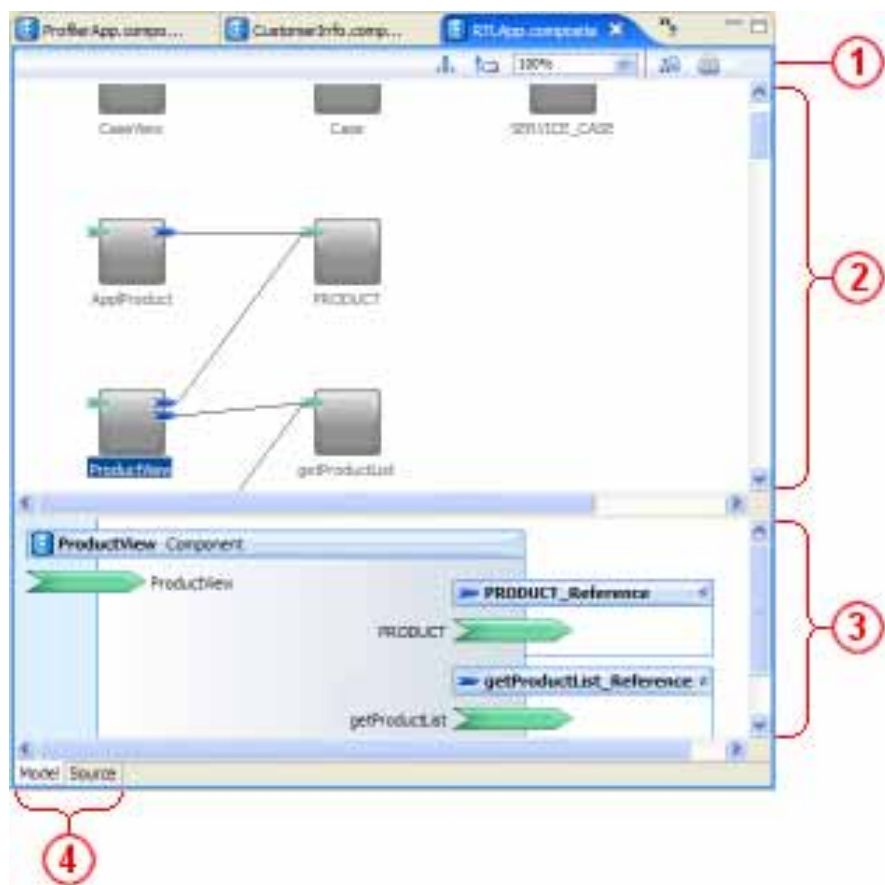
SAM コンポジット ビューには 2 つのタブがあります (SAM コンポジット ビューのページの一番下に、各タブのラベルが表示されます)。

- [Model] ビュー タブには、SCA コンポジットがグラフィカルに表示されます。後述する「[Model] ビュー」を参照してください。
- [Source] ビューのタブには、コンポジットの記述子が表示されます。

どちらのタブも読み取り専用です。SAM 外で XML を編集した場合は、SAM コンポジット ビューでコンポジットをグラフィカルに表示することはできません。

[Model] ビュー

SAM コンポジット ビューの [Model] ビュー タブには、選択したコンポジットがグラフィカルに表示されます。1 つのツールバーと 2 つのペインを備えています。



上図の主な項目：






1. ツールバー
2. [Overview] ペイン

3. [Detail View] ペイン

4. [Model] ビューおよび [Source] ビューのタブ

ツールバー

ツールバーは、フォーカスがどのビューにあるかに関係なく、常に使用できます。以下のボタンが用意されています。

ツールバーの項目	説明
	グラフ トレーシング - グラフ トレーシング効果のオン/オフを切り替えます。オンの場合、現在選択されているコンポーネントに関係するコンポーネントと関連付けのみが有効になります。他のすべてのコンポジット要素は淡色表示されます。詳細については、グラフ トレーシングの節を参照してください。
	リンク ラベルの表示 - リンク (関連付けの) ラベルを表示または非表示にします。
	ズーム - ウィンドウにコンポジット全体を表示する際の拡大率を設定します。
	画像にエクスポート - コンポジット全体を画像として保存します。
	印刷 - コンポジット全体をグラフィックとして印刷します。





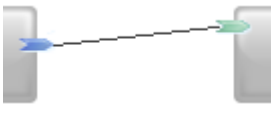


[Overview] ペイン



[Overview] ペインでは、選択したコンポジットのサービス、コンポーネント、および参照間の関係を表示します。[Overview] ペインの左側にサービスが表示され、右側に外部参照が表示されます。

[Overview] ペインのアイコンにマウス ポインタを合わせると、項目についての情報を表示できます。また、[Overview] ペインの任意の場所を右クリックすると、コンテキスト メニューを表示できます。これらの操作を行う場合は、フォーカスが [Overview] ペインにある必要があります。[Overview] ペインにフォーカスを移動するには、ペインの背景の任意の場所をクリックします。

[Overview] ペインのアイコンおよび動作

以下の表に、コンポジットの機能を表すアイコンを示し、各アイコンについて説明します。

アイコン	名前/説明/動作
	<p>コンポーネント</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンポジット内のコンポーネントを表します。 • コンポーネントにマウス ポインタを合わせると、コンポーネント名が表示されます。 • [Overview] ペインでコンポーネントをクリックすると、[Detail View] ペインにそのコンポーネントのサービスと外部参照が表示されます。 • コンポーネントをダブルクリックすると、コンポーネントの実装に移動します (実装が同じプロジェクト内にある場合)。
	<p>コンポーネント サービス タグ</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンポーネントに関連付けられているコンポーネント サービスを表します。 • タグにマウス ポインタを合わせると、サービスの名前が表示されます。
	<p>コンポーネント参照タグ</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンポーネントに関連付けられたコンポーネント参照を表します。 • タグにマウス ポインタを合わせると、参照の名前が表示されます。
	<p>コンポーネント プロパティ タグ</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンポーネントに関連付けられたコンポーネント プロパティを表します。
	<p>リンク (関連付け)</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンポーネントと複合サービス (左) またはコンポジットの外部参照 (右) を結び、依存関係を示す線です。 • ツールバーの  [Show Link Labels] をクリックするか、または背景を右クリックして [Show Link Labels] を選択すると、関連付けによってどのサービスまたは参照がコンポーネントに結び付けられているかを示すリンク (関連付け) ラベルが表示または非表示になります。
	<p>コンポーネント サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンポジット内のサービスを表します。 • 名前を表示するには、このアイコン上でマウスを動かします。

	<p>コンポーネント外部参照</p> <ul style="list-style-type: none"> このコンポジットの外部にある SCA コンポジットの SCA サービスに対する参照を表します。 名前を表示するには、このアイコン上でマウスを動かします。
	<p>未解決の外部参照</p> <ul style="list-style-type: none"> このコンポジットの外部にある SCA コンポジットの SCA サービスに対する未解決の参照を表します。

[Overview] ペインのコンテキスト メニュー




コンポジット全体のコンテキスト メニューを表示するには、以下の手順を実行します。

1. 背景の任意の場所をクリックして、[Overview] ペインにフォーカスを移動します。キャンバス上でコンポジットまたは関連付けが選択されていないことを確認します。
2. 右クリックしてメニューを表示します。メニューには以下のコマンドがあります。

コマンド	説明
Enable Graph Tracing (切り替え)	グラフ トレーシングのオン/オフを切り替えます。オンの場合、選択された項目の依存関係が有効になります。他のすべてのコンポジット要素は淡色表示されます。詳細については、グラフ トレーシングの使用に関する節を参照してください。
Show link labels (切り替え)	リンク (関連付け) ラベルを表示または非表示にします。
Zoom	ウィンドウにコンポジット全体を表示する際の拡大率を設定します。
Export to image	コンポジット全体を画像として保存します。
Print	コンポジット全体をグラフィックとして印刷します。
Submit to Oracle Enterprise Repository	コンポジットとその依存関係を Oracle Enterprise Repository に送信します。「Oracle Enterprise Repository へのコンポジットの送信」を参照してください。

[Detail View] ペイン

[Detail View] ペインは、[Overview] ペインで選択されているコンポーネントのサービスおよび参照の詳細表示を提供します。[Detail View] ペインの左側にコンポーネントのサービスが表示され、右側に外部参照が表示されます。

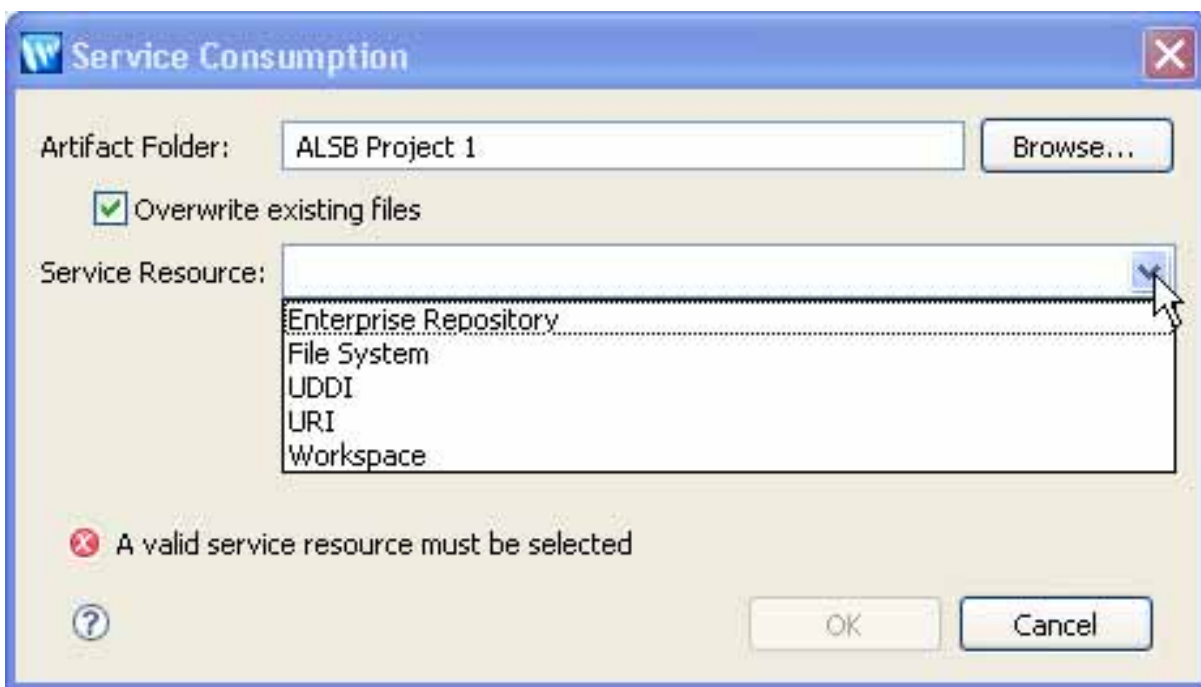
アイコン	名前/説明/動作
	<p>コンポーネント サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンポジット内のサービスを表します。 • このアイコンにマウスを合わせると、コンポーネントの XML の一部を含むツールヒントが表示されます。
	<p>コンポーネント参照</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンポジット内の参照を表します。 • このアイコンにマウスを合わせると、参照の XML の一部を含むツールヒントが表示されます。
	<p>展開/縮小 - コンポジットの外部参照の表示を展開または縮小します。</p>

コンポーネントにプロパティがコンフィグレーションされている場合、それらのプロパティがペインの下部の [Properties] に表示されます。

[Service Consumption] ダイアログ

[Service Consumption] ダイアログでは、以下のリソース タイプのサービスを使用できます。

- **Oracle Enterprise Repository** : [Enterprise Repository Access] ビューを使用して、Oracle Enterprise Repository 経由でサービスを使用します。
- **file system** : ローカル ファイル システムの WSDL ファイルを使用します。
- **UDDI** : UDDI レジストリ経由でサービスを使用します。
- **URI** : リモート WSDL ファイルを使用します。
- **workspace** : 現在のワークスペースに存在するサービスを使用します。



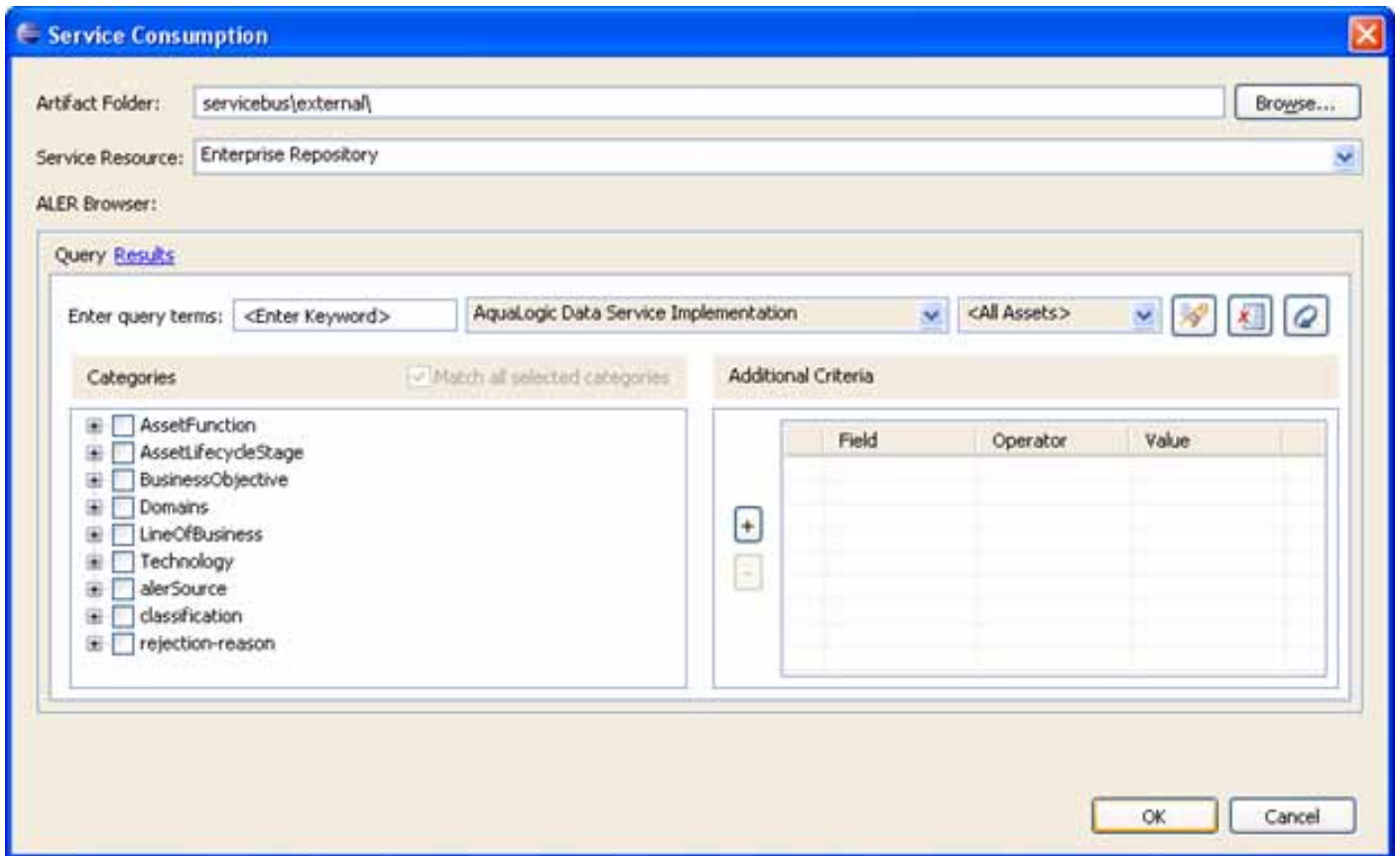
以下に示す [Service Resource] ドロップダウン メニューを使用して、リソース タイプを選択します。

[Artifact Folder] フィールドでは、WSDL ファイルなど、サービスに関連するファイルのダウンロード フォルダを選択できます。デフォルトの場所はプロジェクトのルート フォルダです。

選択されたリソース タイプに応じて、ウィザードに追加のオプションが表示されます。

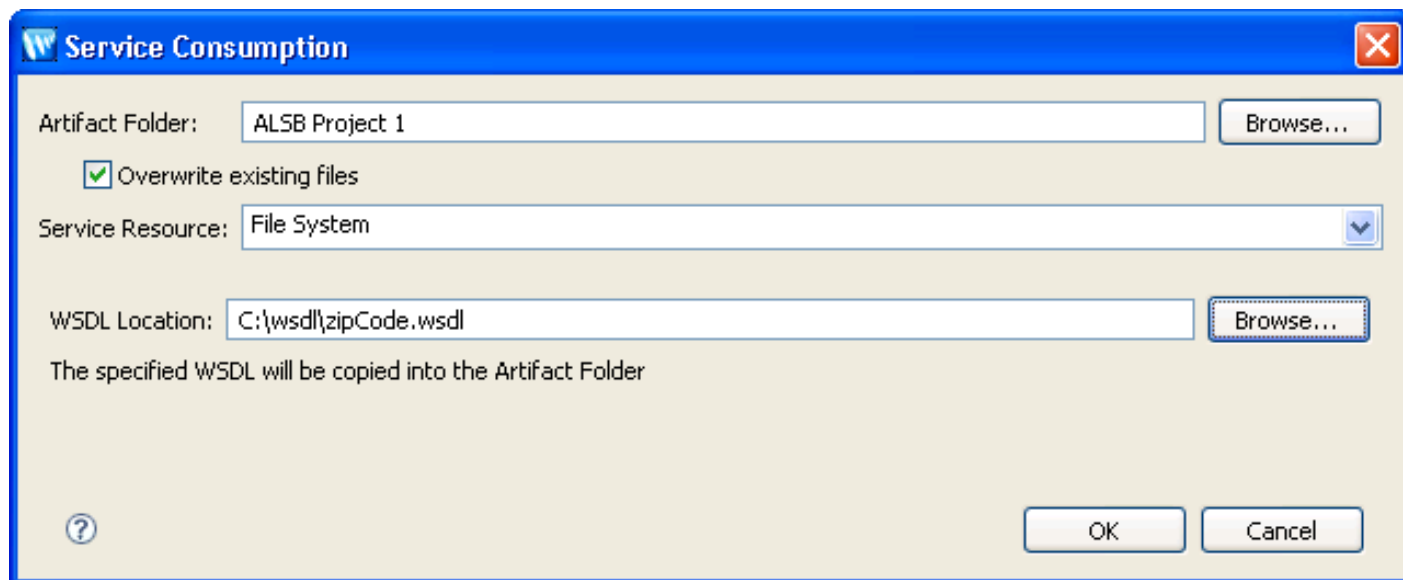
Oracle Enterprise Repository

Enterprise Repository への接続の詳細については、「[Enterprise Repository Access] ビュー」を参照してください。



ファイル システム

ローカル ファイル システムの WSDL ファイルを参照します。ローカル WSDL は [Artifact Folder] にコピーされます。



UDDI レジストリ

[UDDI] が選択されると、UDDI レジストリに接続するための追加オプションがウィザードに表示されます。

Service Consumption

Artifact Folder:

Overwrite existing files

Service Resource:

UDDI Registry Access:

UDDI Registry:

Business Entity: Service Name:

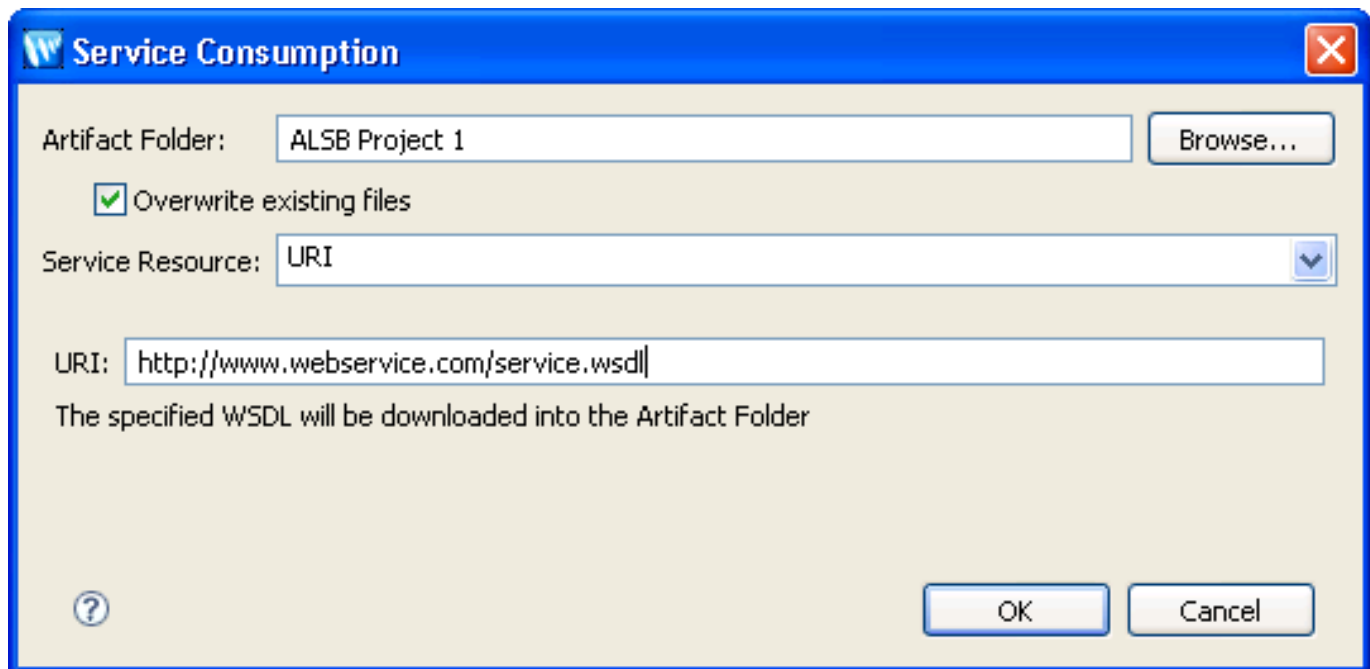
Service	Description	Provider

The specified services WSDL will be downloaded into the Artifact Folder

A service must be selected

URI

[URI] フィールドに指定した WSDL ファイルがダウンロードされます。



The image shows a dialog box titled "Service Consumption" with a blue header bar. The dialog contains the following elements:

- Artifact Folder:** A text input field containing "ALSB Project 1" and a "Browse..." button to its right.
- Overwrite existing files:** A checked checkbox.
- Service Resource:** A dropdown menu currently showing "URI".
- URI:** A text input field containing "http://www.webservice.com/service.wsdl".
- Message:** "The specified WSDL will be downloaded into the Artifact Folder".
- Buttons:** "OK" and "Cancel" buttons at the bottom right, and a help icon (?) at the bottom left.

ワークスペース

[Workspace] を選択すると、現在のワークスペースの各プロジェクトに使用可能なサービスが表示されます。



キーボード ショートカット

SAM のさまざまなアクションは、マウスまたはキーボードを使用して実行できます。以下の表に、キーボードを使用して実行できるアクションを示します。

使用するキー	操作時のフォーカス位置	実行されるアクション
<p>【Tab】 および 【Shift】 + 【Tab】</p> <p>または</p> <p>【Ctrl】 + 【Tab】 および 【Shift】 + 【Ctrl】 + 【Tab】</p>	Eclipse 内の任意の場所	制御グループを前後に移動します。
右矢印および左矢印	任意のツールバー	ツールバー上で、ボタン グループ内のボタンを移動します。
上矢印および下矢印	SAM コンポジット ビューの [Model] タブの [Composite Overview] ペイン (「SAM コンポジット ビュー」を参照)	<ul style="list-style-type: none"> コンポーネントが選択された場合に、コンポーネント間で垂直にフォーカスを移動します。 グラフ トレーシングがオンの状態でリンクが選択された場合に、同じコンポーネントからの他の外部リンク間でフォーカスを移動します。
右矢印および左矢印	SAM コンポジット ビューの [Model] タブの [Composite Overview] ペイン (「SAM コンポジット ビュー」を参照)	<ul style="list-style-type: none"> ノードが選択された場合に、ノード間で水平にフォーカスを移動します。 グラフ トレーシングがオンの状態でリンクが選択された場合に、コンポーネントの内部リンクと外部リンクの間でフォーカスを移動します。
【Shift】 + 【F10】	コンテキスト メニューが関連付けられている項目	コンテキスト メニューを表示します (項目を右クリックした場合と同じです)。
【Enter】	ダブルクリックに反応するすべての項目 (ファイルを開く場合など)	ダブルクリックした場合と同じです。
【F1】	Eclipse 内の任意の場所	ヘルプを表示します。通常、ビューまたはダイアログなどの項目にフォーカスがある場合、その項目についてのヘルプ トピックが表示されます。

Eclipse には、その他にも多数のキーボード ショートカットがあらかじめ設定されています。多くのショートカットは以下の手順で変更できます。

1. [Windows | Preferences] を選択します。

-
2. [Preferences] ダイアログで、[General | Keys] を選択します。
3. Eclipse のガイドラインに従って、設定を編集します。

Service Component Architecture (SCA) 用語集

アセンブリ モデル

「SCA アセンブリ モデル」を参照してください。

コンポーネント

「サービス コンポーネント」を参照してください。

コンポジット

「SCA コンポジット」を参照してください。

モデル

「SCA アセンブリ モデル」を参照してください。

プロジェクト

Eclipse においては、関連するフォルダおよびファイルの集合。Eclipse の SAM プロジェクトとは、Eclipse での SCA アセンブリ モデルの表現です。

参照

ある実装が、他の実装によって提供されるサービスに依存している場合、その依存関係を参照と呼びます。このとき、使用されるサービスはコンフィグレーションによって指定されます。言い換えると、参照とは、実装によるビジネス機能の実行中に呼び出すことができるサービスです。

SAM

「Service Assembly Modeler」を参照してください。

SCA

「Service Component Architecture」を参照してください。

SCA アセンブリ モデル

SCA ドメインのコンフィグレーションをコンポジットによって定義した一連のアーティファクト。コンポジットにはサービス コンポーネントのアセンブリと、それらの相互の結び付きを表す接続および関連アーティファクトが含まれます。

SCA コンポジット

ビジネス ニーズに対応するように一連のサービスとしてアセンブルされたアプリケーション。SCA コンポジットは SCA の要素を論理的なグループにアセンブルしたもので、SCA ドメインにおける構成の基本単位です。SCA コンポジットには一連のコンポーネント、サービス、参照、およびそれらを相互に接続するリンクに加えて、コンポーネントのコンフィグレーションに使用できる一連のプロパティが含まれます。

SCA ドメイン

関連した SCA 対応サービス（たとえば、関連する一連のビジネス機能を提供するサービス）を表します。

SCA 対応

既存のアプリケーションを基にして SCA コンポジットを作成すること。アプリケーションを SCA 対応にする場合、ソース アプリケーションの該当の機能に基づいて SCA コンポーネントおよびその他のアーティファクトを作成します。

サービス

あるコンポーネントによって提供され、他のコンポーネントで使用できるビジネス機能。サービスはコンポーネントによって提供され、使用されます。

Service Assembly Modeler (SAM)

SCA アセンブリ モデルをアセンブルして表示する Eclipse プラグイン。SAM は SCA を基礎にしています。

サービス コンポーネント

実装のコンフィグレーション済みインスタンス。ここでの実装とは、ビジネス機能を提供するコードです。ビジネス機能は、他のコンポーネントからサービスとして使用できます。実装には、ビジネス機能の処理に影響を与える設定可能なプロパティが含まれる場合があります。コンポーネントは、適切な値を提示したり、他のコンポーネントが提供するサービスへの参照を関連付けたりすることによって、実装をコンフィグレーションします。

Service Component Architecture (SCA)

Service Oriented Architecture (SOA) に基づいてアプリケーションおよびサービスを構築するプログラミング モデル。SAM は SCA のアセンブリ モデルの Service Component Architecture Specification の仕様に基づいています。

<http://www.osoa.org/display/Main/Service+Component+Architecture+Specifications> を参照してください。